

衛生調查書

第三十輯

(實地調查の五)

第二體格篇

(本島人)

臺灣總督府警務衛生課

国立保健医療科学院蔵書



10012083

昭和十年刊行

衛生調查書

第三十輯

(實地調查の五)

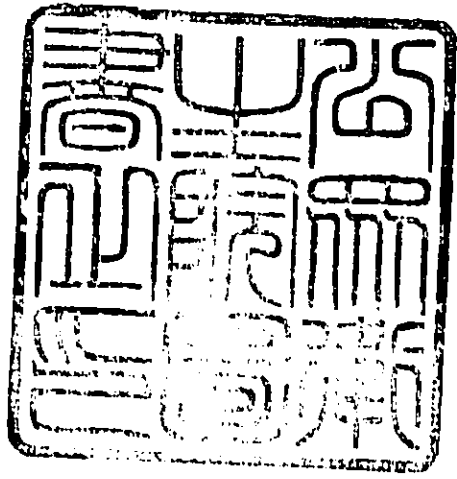
第二體格篇

(本島人)

臺灣總督府警務衛生課

昭和十年刊行

昭和十四年十二月十八日
臺灣總督府公畫部
寄贈
衛生院公衆



は し が き

國家隆昌の基礎は國民の健康にあり、健康保全の根本は體位の向上にある、民族體位の向上は須らく保健施設の完備に俟たねばならぬ。而して國民の體格狀況と、其の環境との相關的考察は保健施設の基調である。

本篇は衛生狀態の佳良なる地區に於ける體格狀況を編述したものであつて、茲に公刊したる非健康區に於ける體格篇に對比して、體格と環境との相關關係を示して、保健施設の基調に資せむとするものである。

昭和十年二月

臺灣總督府警務局衛生課長

高

橋

秀

人

保健衛生實地調査書第五卷「第二體格篇」目次

第一章 總 說	一
第二章 調 査 地	二
第三章 檢 査 人 員	四
第一 性別検査人員	四
第二 年齢別検査人員	五
第四章 體 格	一〇
第一 六歳未満の體格	一〇
一 體 重	一〇
イ 全島の觀察	一〇
ロ 地方別觀察	一一
ハ 好惡兩地區に於ける比較	一五
ニ 内地との比較	一六
二 身 長	一九

イ 全島の観察 元

ロ 地方別観察 二〇

ハ 好悪兩地區に於ける比較 三

ニ 内地との比較 三

三 胸 圍 二

イ 全島の観察 二

ロ 地方別観察 二

ハ 好悪兩地區に於ける比較 二

ニ 内地との比較 二

ホ 身長との考察 二

ヘ 内地に於ける胸圍比との比較 二

第二 六歳以上十五歳未満の體格 三

一體 重 三

イ 全島の観察 三

ロ 地方別観察 三

ハ 好悪兩地區に於ける比較 三

ニ 内地との比較 三

ニ 身長 三

イ 全島の観察 四〇

ロ 地方別観察 四一

ハ 好悪兩地區に於ける比較 四三

ニ 内地との比較 四四

三 胸 圍 四七

イ 全島の観察 四七

ロ 地方別観察 四八

ハ 好悪兩地區に於ける比較 五〇

ニ 内地との比較 五一

第三 十五歳乃至二十四歳の體格 五五

一體 重 五五

イ 全島の観察 五五

ロ 地方別観察 五五

ハ 好悪兩地區に於ける比較 五九

ニ 内地との比較 六〇

ニ 身長 六二

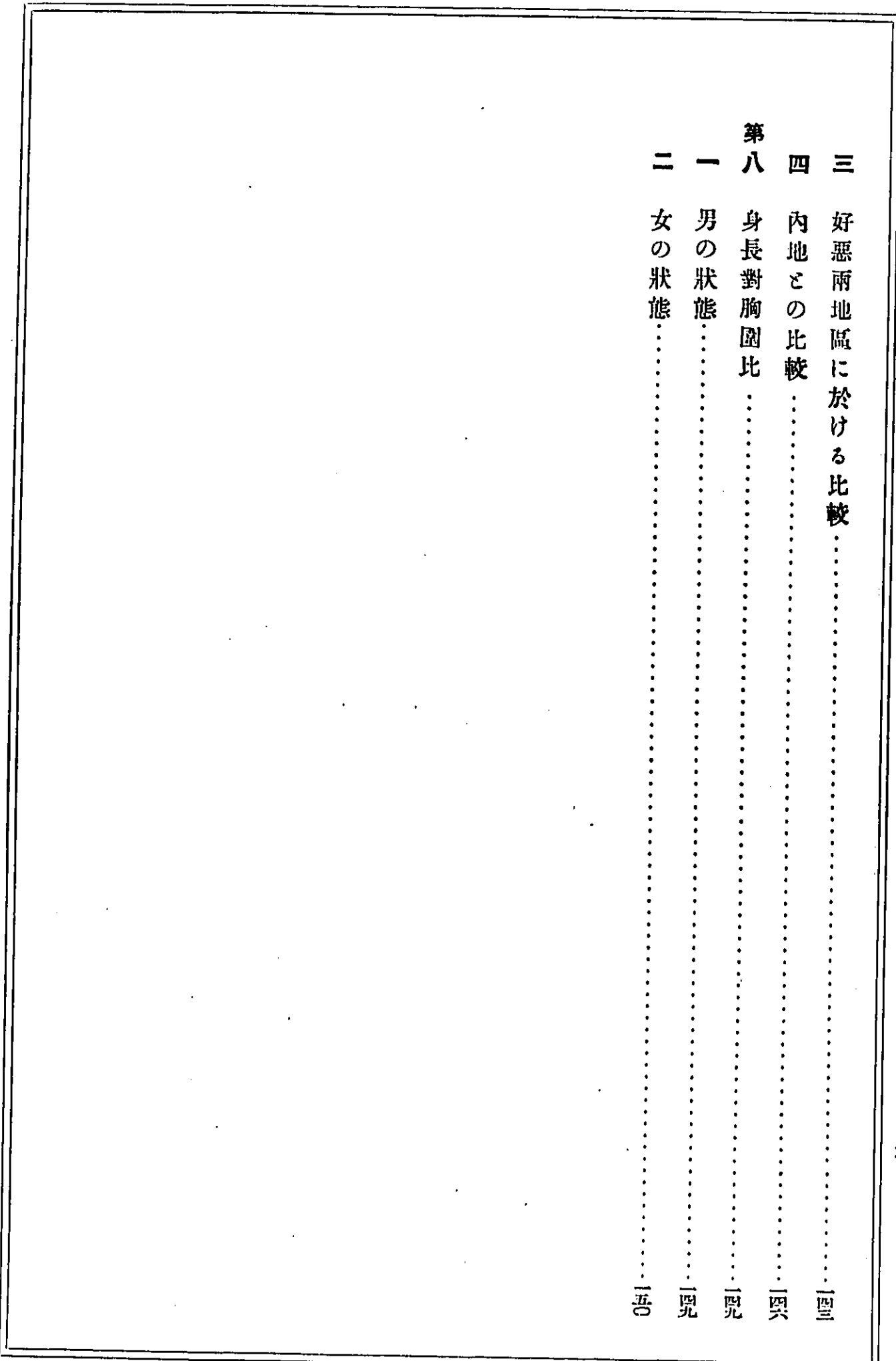
イ 全島の観察 六二

ロ 地方別観察 六三

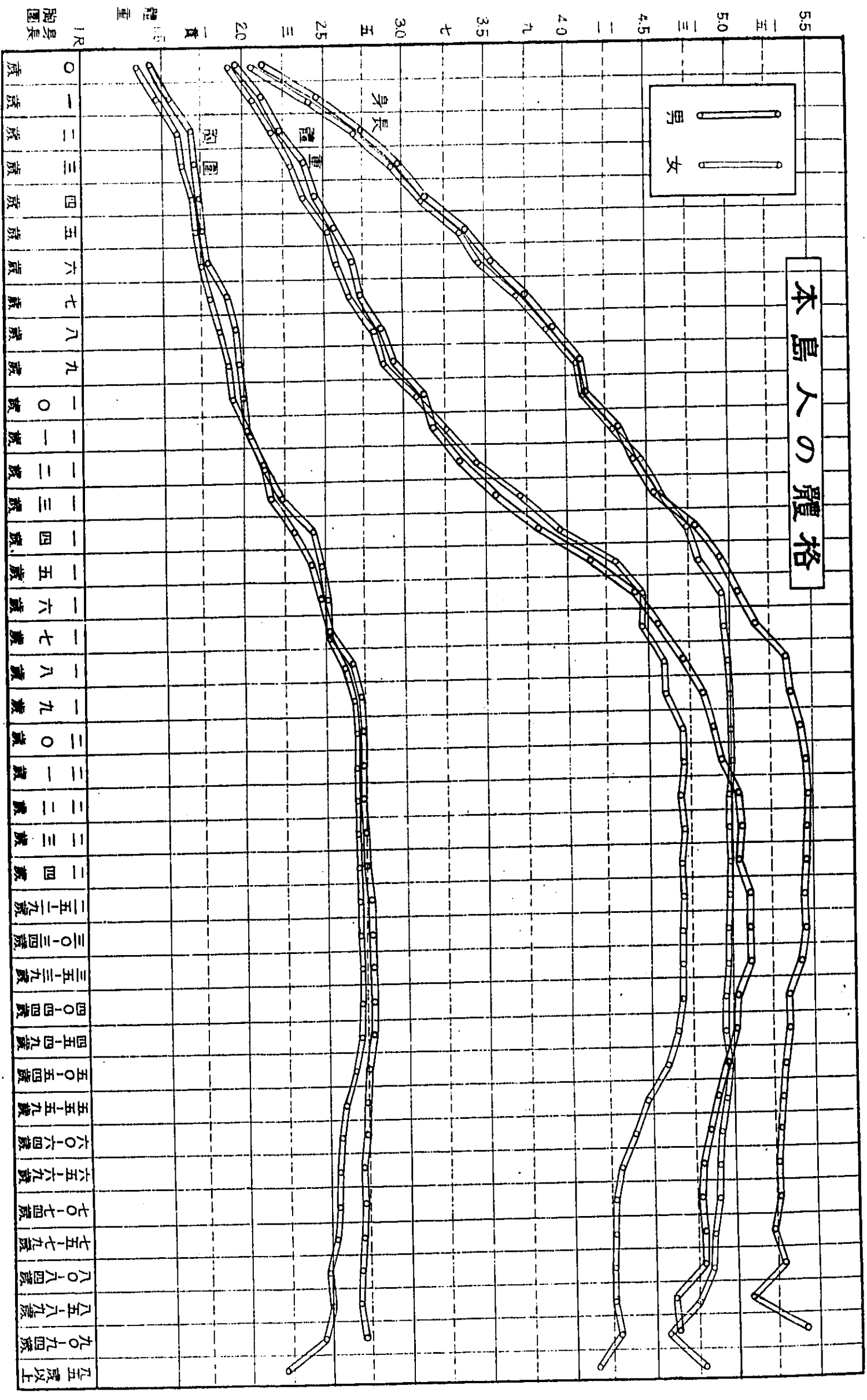
ハ	好悪兩地區に於ける比較	二六
ニ	内地との比較	二六
三	胸 圍	二七
イ	全島の觀察	二七
ロ	地方別觀察	二七
ハ	好悪兩地區に於ける比較	二七
ニ	内地との比較	二七
第四	二十五歳以上の體格	二八
一	體 重	二八
イ	全島の觀察	二八
ロ	地方別觀察	二八
ハ	好悪兩地區に於ける比較	二八
ニ	内地との比較	二八
二	身 長	二九
イ	全島の觀察	二九
ロ	地方別觀察	二九
ハ	好悪兩地區に於ける比較	二九
ニ	内地との比較	二九

三	胸 圍	三〇
イ	全島の觀察	三〇
ロ	地方別觀察	三〇
ハ	好悪兩地區に於ける比較	三〇
ニ	内地との比較	三〇
第五	身長一寸に對する體重	三一
一	全島の觀察	三一
二	地方別觀察	三一
三	好悪兩地區に於ける比較	三一
四	内地との比較	三一
第六	體重別人口	三二
一	全島の觀察	三二
二	地方別觀察	三二
三	好悪兩地區に於ける比較	三二
四	内地との比較	三二
第七	身長別人口	三三
一	全島の觀察	三三
二	地方別觀察	三三

- 三 好悪兩地區に於ける比較.....一四〇
- 四 内地との比較.....一四六
- 第八 身長對胸圍比.....一四九
- 一 男の狀態.....一五〇
- 二 女の狀態.....一五〇

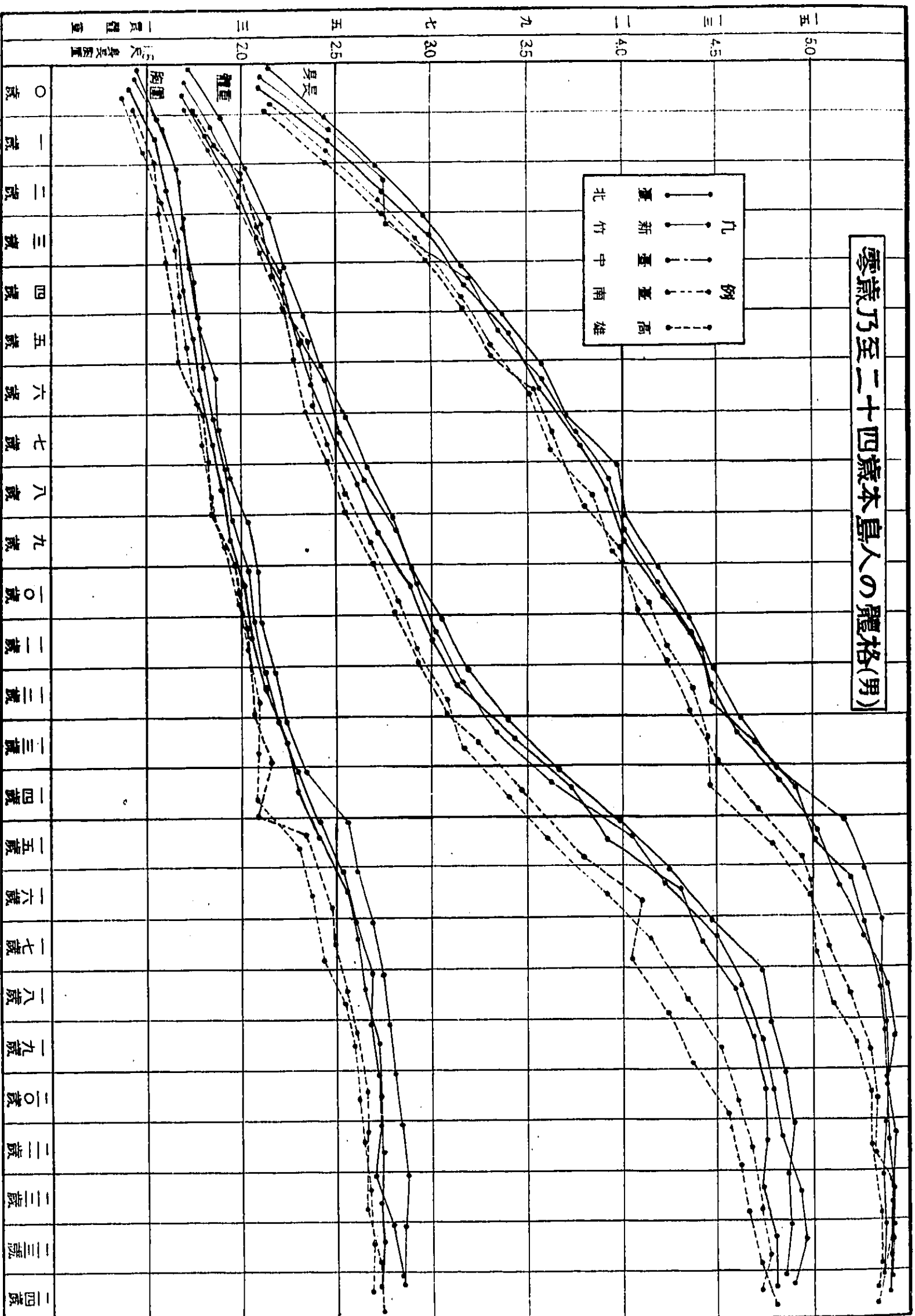


本島人の體格

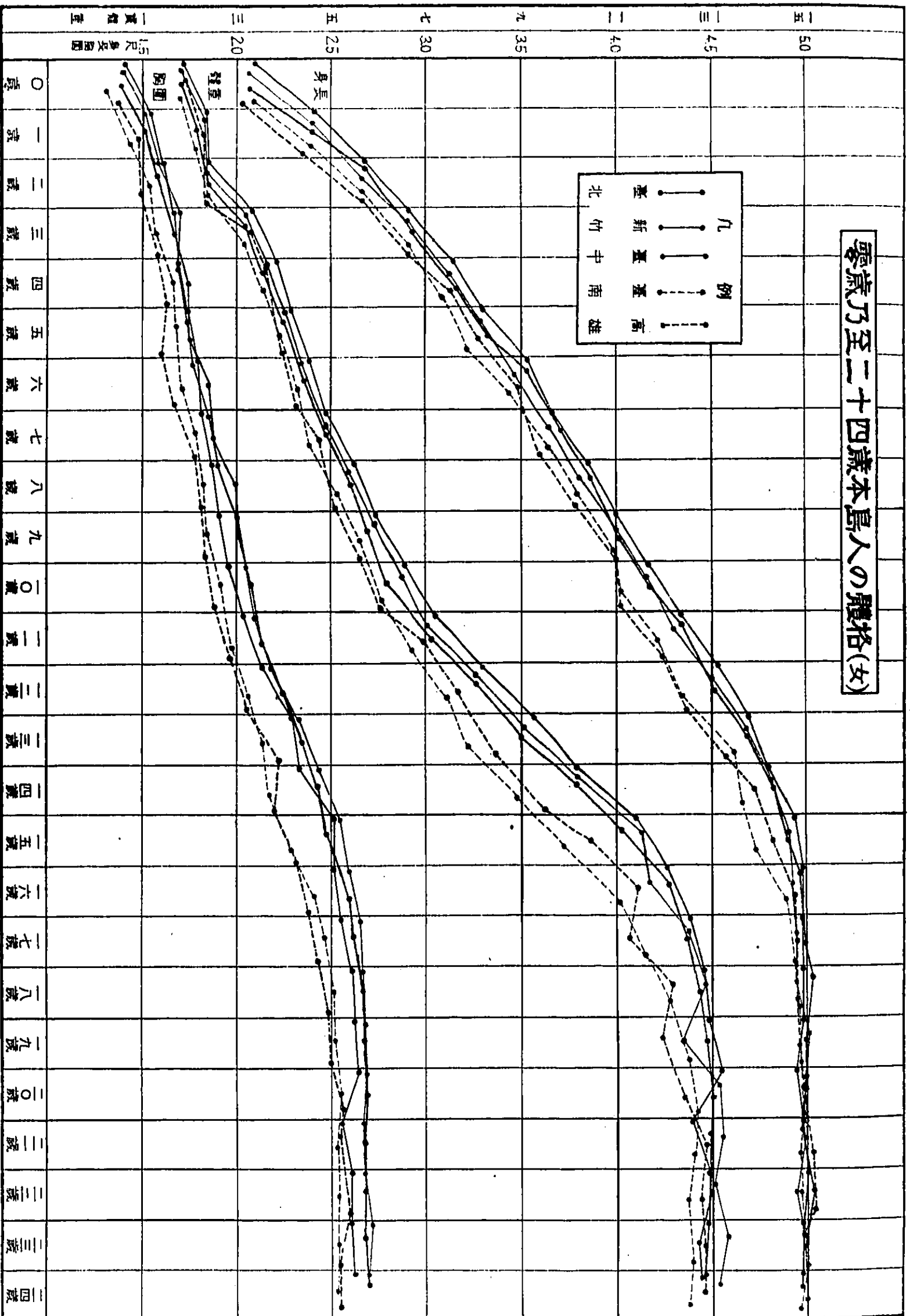


第一圖

零歳乃至二十四歳本島人の體格(男)



零歳乃至二十四歳本島人の體格(女)



15尺身長線

三

五

七

九

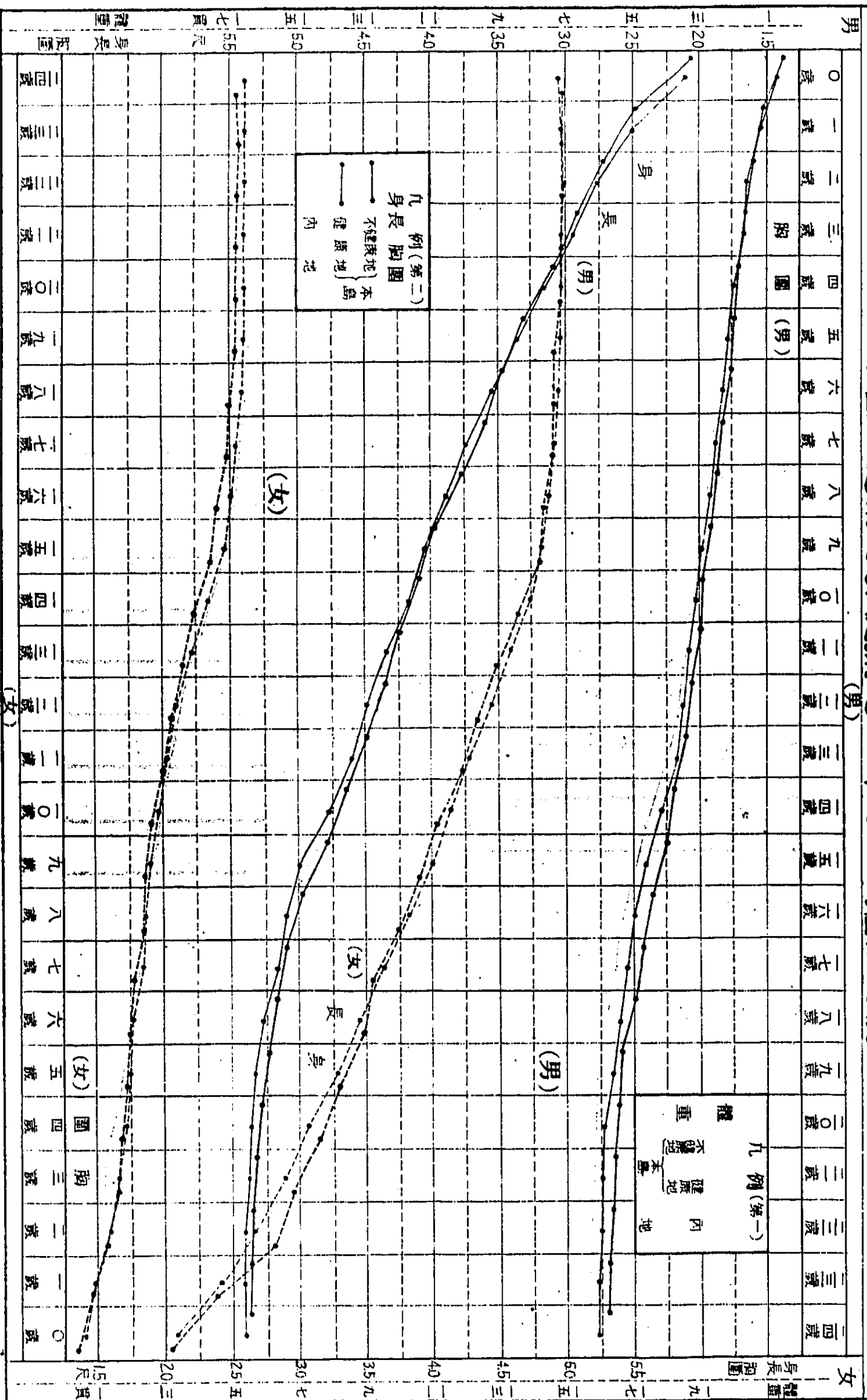
一一

一三

一五

0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 6歳 7歳 8歳 9歳 10歳 11歳 12歳 13歳 14歳 15歳 16歳 17歳 18歳 19歳 20歳 21歳 22歳 23歳 24歳

本島の健康地・非健康地と内地との體格比較



保健衛生實地調査報告書第五卷第二體格篇

第一章 總 說

體格の魁偉のみを見て、直にもつて體質の好悪を判することが能きぬ、大體力士のやうに偉大な者は體質も矢張り佳良だと謂ひ得れども體格が優秀なりと稱するには身體の外貌は勿論、内臓諸器總て良好にして均整の取れてゐることが最も肝心である。

民族の隆昌には教育、産業、國防等に重點を措かなければならないが、一にかゝつて個人の健康に基因するのであるから、之が對策として朝野力を協せ體位の向上と衛生思想の啓發普及を講ずることが緊要事である、則ち政務から見ても保健工作は凡百施政の前驅を承るものである。

先づ民族の體位を検討するには、其の民族の正常なる發育狀態、即ち外部的體格の標準を定めなければならぬ、亞いて内部的機能の動向主として疾患、體特質との相關關係等を考察すべきである。之を要するに人類の身長、體重、胸圍を剖析究明することに由つて縦斷的には體位の動靜を知悉することが能き、一面横斷的には體質又は榮養、其の他の關聯を觀察するの導火線となり、之が演繹によつて健、不健の豫測を察知し得るのである。是れ體格調査の緊要なる所以である。而かも保健衛生の刷新を企圖せむには第一義基調として體格組成の根源を綜合的に考察するにあらざれば、その目的を達成することが出来ない。

本篇は本島衛生状態の佳良なる地區に於ける體格關係を編纂したものである、而して茲に發表したる不健康地區に於けるそれとの對照を行ひて、その動示を數字的に闡明し、更に内地農村に於けるそれとも比較を試み、島民體格の品等を秤定せむとするものである。

第二章 調査地

保健衛生實地調査は從來衛生状態の不良部落に施行して來たのであるが、不良地區に於ける衛生諸相は調査の回次を重ねるに正比して其の確率を高めることが能きた。即ち不健康地に於ける居住民の體格、衣食住の常態、死亡高率の因由、通風採光と健否の相關、地理的と疾病の影響、寄生蟲瀰蔓の蓋然率、トラホームの分散度、飲料水の適否、其の他衛生に關する迷信慣習等の實相を捕捉し得たから、他の不健康地のそれをも類推することが出来るので、昭和四年度よりは不良部落の實查を打切り、保健状態の佳良なる地區に實施することに決し、各州一齊にその歩調を同ふして、各管下に於ける優良地を選定して之を調査することとしたのである。之は健康地の實状を探查すると同時に、好悪兩地帯に於ける健康上に影響する因果的合法則の發見に資し、もつて保健行政向上刷新の基調を樹立せむとするものであつて、是れ則ち本調査の目的とする所である。

次に各州下に於て健康地として選定の上、保健調査を施行したる地名及び調査せし人口を摘記するとき左の如くである。

□保健調査施行地（州名下の數字は調査回次）

地方、調査回次及施行地	戸數	人口	地勢	生業	調査の時
臺北州 8 臺北市大龍廟町	1,057	5,055	臺北市の北端淡水河下流の平坦地	半農半商	昭和五年一月
臺北州 9 海山郡鶯歌庄樹林	1,033	6,733	臺北盆地の南西部にして平坦地	農村、米茶の産地	同 年十月
臺北州 10 七星郡北投庄	1,354	7,554	臺北市を北に距る九・九七軒、大屯山麓を背にする温泉地帯	農業主として米茶、旅館料理	同 年十月
臺北州 10 臺北市西園町	595	4,133	臺北市の南西部にして新店溪畔、土地平坦なり	農業主として加作にして香料（製茶用）、野菜	同 年十二月
新竹州 8 大溪郡大溪街内柵	454	3,644	山脚地帯	農	昭和四年一月
新竹州 9 苗栗郡通霄庄	543	3,393	海岸地	半農半漁、屋内工業（帽子編み）廢盛	同 年九月
新竹州 10 中縣郡新屋庄	894	6,874	北は支那海に臨む平坦なる田園地	農	同 年五月
新竹州 11 新竹郡香山庄	1,194	7,844	新竹市郊外の平坦なる農耕地	農	同 年四月
新竹州 12 同郡慈港庄	331	2,331	概ね平坦なる田園地帯、海岸を有す	農	同 年五月
臺中州 10 大甲郡大甲街	1,533	5,744	山脚より海岸に至る傾斜地	農業、大甲帽の集散地	昭和四年七月
臺中州 11 豐原郡豐原街豐原	1,314	7,644	臺中市の北三里七町平坦にして稍々傾斜地	農村蓬萊米の中心市場、商工業	同 年十月
臺中州 12 員林郡員林街員林	1,170	8,330	地形平坦天惠の農産地	商業青果類及米の集散地	同 年九月
臺南州 4 虎尾郡二崙庄	518	3,338	斗六平野の中央地	農	大正十三年十月
臺南州 9 新豐郡永寧庄灣裡	633	4,543	臺南市を去る二里の海岸地帯	半農半漁	昭和四年十月
臺南州 10 新化郡新市庄	915	4,445	土地平坦肥沃、通至便の地	農村（甘蔗、米の産地）	同 年十月
臺南州 11 北門郡佳里街佳里	1,294	6,694	一帯に平坦なる、稍々礫の爲水害の憂なし	農商（甘蔗の産額大なり）	同 年十一月
高雄州 8 鳳山郡仁武庄三奶壇	494	3,194	岡山平野と鳳山平野を連突する地點の平野	農	昭和四年五月
高雄州 9 岡山郡湖内庄海埔園子内	1,134	7,534	臺南州界にある傾斜地	農	同 年四月
高雄州 10 東港郡東港街東港	1,516	10,316	三面河海に圍繞せらる、郡所在地	漁業、農業、附近物資の集散地	同 年十月

第三章 検査人員

第一 性別検査人員

保健状態の優良地に実施したる總検査人員は一〇〇、七〇四人にして、之を各性に分つと男は五〇、九九一人即ち總員の五〇・六%を示し、女は男に比して一、二七八人寡く四九、七一三人を算してゐるから、其の割合は四九・四%である。則ち男一〇〇につき女は九七に該つてゐる。之を昭和五年十月一日施行の國勢調査に於ける男女の權衡と比較して見ると、その比率は全く同軌を呈してゐる。即ち國勢調査時の本島人男は二、一九二、三八四人、女は二、一三一、二九七人であつた。而して不健康地調査時に於ける女性は若干の高率を認められた。即ち男一〇〇に對し女は九九を示した。次に保健調査を實施した人員を州別に表示する。

□體性別検査人員

全島	總數		男		女	
	男	女	男	女	男	女
臺北	二〇、一七五	一〇、二〇六	一〇、一八一	一〇、九二六	九、九六九	九七・七
新竹	二二、一〇七	一一、二八一	一一、二八一	一〇、九二六	九、一四六	九七・七
臺中	一八、六五七	九、五一一	九、五一一	九、一四六	九、六二九	九六・二
臺南	一九、三五七	九、七二八	九、七二八	九、六二九	九、八・九	九六・九
高雄	二〇、四〇八	一〇、三六五	一〇、三六五	一〇、〇四三	九六・九	九六・九

右表を觀るに各州孰れも男を多數とし、就中臺南州は各性別接近し、臺中州は各州中女を少數とし、臺北、新竹の兩州は全島平均に近逼してゐる。

第二 年齢別検査人員

年齢の計算には歷年に從つて計算する「數へ年」と、滿年制に依る計算とがある。本調査に在りては體軀の發育經過を仔細に攷究する立前から後者の計算に據つた。而して滿年に依る計算も年齢起算日は各調査開始日とし、一年に達せざる者を零歳とし、二年未滿を一歳とし、以下之に準じて計算した。尙本調査に於ては乳兒期は各月に分ちて其の發育過程を調査し、更に生後一箇月間は各週別に細分したのであるが、本篇に於ては一年に達せざる者は一括して總て零歳として觀察することゝした。又發育期に在る二十五歳未滿は之を各歳に分割して、各歳の發達歸嚮を精査するの資と爲した。成人に達した二十五歳以上に在りてはその生育關係が比較的影響微弱であるから、之は各五歳宛に括つて觀察檢討を試むることゝなした。今本調査地(衛生状態の優良部落)と曩に調査したる不健康地に於ける人口の年齢構成の梗概を敍べて見ると、男に在りては十五歳未滿は健康地區が四三%を示すに對し、不健康地のそれは四一%にて前者より二%の低率である。之は乳幼兒級に夭死者が多い影響である。次に生産能力者を見ると健康地の五四%に比し、不健康地は健康地よりも二%高く五六%を示してゐる。之は一面生産者階級が多いやうな結果を呈露してゐるが、事實は之に反し不健康地に在りては幼少年期の寡少なること、其の他は高年者の稀少なる結果に基因する相對的減少であつて、直に中堅たる生産能力者が多いといふ結論とはならぬ。それで六十歳以上の高老者を見ると健康地の四%に對比して不健康地に在りては三%弱の生存者に過ぎないことが明かる。

次に女の狀態を窺ふと男の場合と同じで十五歳未滿級と十五歳乃至六十歳未滿級とを、其の傾

向が全く同軌であるか、高年級は健康地の四・八％に對し不健康地は五・二％を示し〇・四％だけ不健康地が高い譯である、こは男に於けると同じく十五歳未満者の少數なるは相對的歸趨と見るべきものである。而して兩地域に於ける六十歳以上の男女を合算した總數から之を觀察するときには優良地の四・一七％に比し不良地(四・一〇％)は若干の低率である。

更に好悪兩地帯に於ける人口の年齢構成を昭和五年國勢調査のそれと比較すると、十四歳以下の幼年級は良好地最多にして四二％を示し、國勢調査(四一％)之に亞ぎ、不良地は四〇％にて最低率である。之の成績に依れば國勢調査の比率は好悪兩地區の平均即ち中位に當つてゐるものである。十五歳乃至五十九歳の生産年齢級人口を見るに前少年幼兒級人口と全く相反して不良地(五六％)最高位を保ち、良好地は國勢調査のものど殆ど軒輊なく五三％を示して最下位である。良好地比率の低きは幼年級最多の影響にしてこれまた相對的現象である。若し夫れ六十歳以上の老年級の状態を見るに各調査孰れも幼年級の約一割に該る四％臺にして伯仲の間にあれども、就中國調最も優れ、良好地、不良地の順位を成してゐる。

之を要するに衛生狀況の不良地區には幼年級者の低率なることは否むことが出來ない、即ち不良地に在りては乳幼兒死亡の高率なることを如實に裏書きするものと謂へる。

生産年齢及非生産年齢に區分した、好悪兩地域別人口並に國勢調査に依る人口との比較を表示するときには、次表の如くである。

□生産年齢別人口

體性及年齢	本調査地		不健康地		國勢調査		
	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	
總數	105,492	100.00	33,645	100.00	433,381	100.00	
	〇—一四歳	33,737	31.98	11,851	35.25	176,688	40.54
	一五—五九歳	53,555	50.83	21,006	62.47	225,193	51.95
六〇歳以上	18,200	17.19	10,788	32.28	131,499	30.51	
男	總數	50,981	100.00	16,586	100.00	139,865	100.00
	〇—一四歳	16,323	32.04	5,672	33.91	89,910	64.30
	一五—五九歳	32,458	63.66	10,914	65.72	50,955	36.37
六〇歳以上	12,100	23.74	9,999	60.30	78,999	56.37	
女	總數	54,511	100.00	17,059	100.00	293,516	100.00
	〇—一四歳	17,414	31.94	6,179	36.21	86,778	29.57
	一五—五九歳	36,897	67.46	10,880	63.79	206,738	70.43
六〇歳以上	10,200	18.71	9,999	58.61	99,999	33.99	

由來人口の増減は出生、死亡を主因とし、來住往住を副因とするのであるが、社會衛生上に重要な意義を有するは年齢構成の關係である。即ち保健上の見地から謂ふと二等邊三角形を呈するを期待するものであるが、年々の出生率が不規則であつて、死亡も亦之に伴ひ不定型的であれば、其の衛生的事象は不良であつて刷新すべき餘地のあることを物語るものである。今衛生状態優良地に於ける各歳別人口を一瞥すると零歳は一歳よりも低率で異様の感を懐かしむるも、之は生後餘日なきもの又は産婦と俱に産褥にあるものは母子ともに調査せざるに基因する、本調査は

大體検査所に出頭せしめ別段強制を乗らなかつた爲めである。二歳よりは六歳を除くと十三歳までは各年漸減し圓滑なる正常年齢層を形成してゐる。十四、五歳間は若干膨脹してゐるが、其の他は各歳無理からの逐減状態の一路を辿つてゐる。

然るに不良部落調査地に於ける年齢構成を窺ふに一歳乃至六歳間は常型通り漸減すれども其の比率を仔細に観察すると健區に比し毎歳〇・五%内外の低率にして幼兒級の寡少なるを證左してゐる、而して七歳の比率は前六歳より上騰し十一歳に至る五年間は却て累年遞増を續け、爲めに健區又は國調よりも高率を示してゐる。十二歳以上二十四歳間も、犬牙錯綜して起伏常なし。四十歳乃至六十歳は一六九七%を占め、健區(一五七八%)は却て一一九%低位にあり、而して國調の同期間は一五七三%にして健區と相伯仲してゐる。更に高年の六十歳乃至八十歳の二十年間は三九七%を示すに對し健區は四〇五%にして健區遙に勝れ、國調は健區よりも僅かに高く四〇八%を示してゐる。

各歳別人口の詳細を表章して見ると、次の如くである。

□好悪兩地帯別検査人員と國勢調査に依る年齢別人口

年 齡 (歳)	絶 對 數		相 對 數 (百分比)	
	良好地	不良地	良好地	不良地
總 數	100,000	3,660	100.00	100.00
一 歳	3,540	1,870	3.54	5.14
二 歳	3,530	1,850	3.53	5.08
三 歳	3,520	1,830	3.52	5.03
四 歳	3,510	1,810	3.51	4.98
五 歳	3,500	1,790	3.50	4.93
六 歳	3,490	1,770	3.49	4.88
七 歳	3,480	1,750	3.48	4.83
八 歳	3,470	1,730	3.47	4.78
九 歳	3,460	1,710	3.46	4.73
十 歳	3,450	1,690	3.45	4.68
十一 歳	3,440	1,670	3.44	4.63
十二 歳	3,430	1,650	3.43	4.58
十三 歳	3,420	1,630	3.42	4.53
十四 歳	3,410	1,610	3.41	4.48
十五 歳	3,400	1,590	3.40	4.43
十六 歳	3,390	1,570	3.39	4.38
十七 歳	3,380	1,550	3.38	4.33
十八 歳	3,370	1,530	3.37	4.28
十九 歳	3,360	1,510	3.36	4.23
二十 歳	3,350	1,490	3.35	4.18
二十一 歳	3,340	1,470	3.34	4.13
二十二 歳	3,330	1,450	3.33	4.08
二十三 歳	3,320	1,430	3.32	4.03
二十四 歳	3,310	1,410	3.31	3.98
二十五 歳	3,300	1,390	3.30	3.93
二十六 歳	3,290	1,370	3.29	3.88
二十七 歳	3,280	1,350	3.28	3.83
二十八 歳	3,270	1,330	3.27	3.78
二十九 歳	3,260	1,310	3.26	3.73
三十 歳	3,250	1,290	3.25	3.68
三十一 歳	3,240	1,270	3.24	3.63
三十二 歳	3,230	1,250	3.23	3.58
三十三 歳	3,220	1,230	3.22	3.53
三十四 歳	3,210	1,210	3.21	3.48
三十五 歳	3,200	1,190	3.20	3.43
三十六 歳	3,190	1,170	3.19	3.38
三十七 歳	3,180	1,150	3.18	3.33
三十八 歳	3,170	1,130	3.17	3.28
三十九 歳	3,160	1,110	3.16	3.23
四十 歳	3,150	1,090	3.15	3.18

年 齡 (歳)	絶 對 數		相 對 數 (百分比)	
	良好地	不良地	良好地	不良地
總 數	100,000	3,660	100.00	100.00
一 歳	3,540	1,870	3.54	5.14
二 歳	3,530	1,850	3.53	5.08
三 歳	3,520	1,830	3.52	5.03
四 歳	3,510	1,810	3.51	4.98
五 歳	3,500	1,790	3.50	4.93
六 歳	3,490	1,770	3.49	4.88
七 歳	3,480	1,750	3.48	4.83
八 歳	3,470	1,730	3.47	4.78
九 歳	3,460	1,710	3.46	4.73
十 歳	3,450	1,690	3.45	4.68
十一 歳	3,440	1,670	3.44	4.63
十二 歳	3,430	1,650	3.43	4.58
十三 歳	3,420	1,630	3.42	4.53
十四 歳	3,410	1,610	3.41	4.48
十五 歳	3,400	1,590	3.40	4.43
十六 歳	3,390	1,570	3.39	4.38
十七 歳	3,380	1,550	3.38	4.33
十八 歳	3,370	1,530	3.37	4.28
十九 歳	3,360	1,510	3.36	4.23
二十 歳	3,350	1,490	3.35	4.18
二十一 歳	3,340	1,470	3.34	4.13
二十二 歳	3,330	1,450	3.33	4.08
二十三 歳	3,320	1,430	3.32	4.03
二十四 歳	3,310	1,410	3.31	3.98
二十五 歳	3,300	1,390	3.30	3.93
二十六 歳	3,290	1,370	3.29	3.88
二十七 歳	3,280	1,350	3.28	3.83
二十八 歳	3,270	1,330	3.27	3.78
二十九 歳	3,260	1,310	3.26	3.73
三十 歳	3,250	1,290	3.25	3.68
三十一 歳	3,240	1,270	3.24	3.63
三十二 歳	3,230	1,250	3.23	3.58
三十三 歳	3,220	1,230	3.22	3.53
三十四 歳	3,210	1,210	3.21	3.48
三十五 歳	3,200	1,190	3.20	3.43
三十六 歳	3,190	1,170	3.19	3.38
三十七 歳	3,180	1,150	3.18	3.33
三十八 歳	3,170	1,130	3.17	3.28
三十九 歳	3,160	1,110	3.16	3.23
四十 歳	3,150	1,090	3.15	3.18

年 齡 (歲)	絶 對		國 勢 調 査	相 對		國 勢 調 査
	良 好 地	不 良 地		良 好 地	不 良 地	
五 五 九 歲	三 五 六	一 五 六	三 〇 六	二 五 五	二 〇 〇	二 八 〇
六 〇 六 歲	一 九 五	一 〇 四	二 〇 六	一 六 一	一 七 〇	一 八 〇
六 五 六 歲	二 〇 五	一 〇 四	二 〇 六	一 六 一	一 七 〇	一 八 〇
七 〇 七 歲	二 〇 五	一 〇 四	二 〇 六	一 六 一	一 七 〇	一 八 〇
七 五 七 歲	二 〇 五	一 〇 四	二 〇 六	一 六 一	一 七 〇	一 八 〇
八 〇 八 歲	二 〇 五	一 〇 四	二 〇 六	一 六 一	一 七 〇	一 八 〇
八 五 八 歲	二 〇 五	一 〇 四	二 〇 六	一 六 一	一 七 〇	一 八 〇
九 〇 九 歲	二 〇 五	一 〇 四	二 〇 六	一 六 一	一 七 〇	一 八 〇
九 五 九 歲	二 〇 五	一 〇 四	二 〇 六	一 六 一	一 七 〇	一 八 〇
合 計	二 〇 五	一 〇 四	二 〇 六	一 六 一	一 七 〇	一 八 〇

第四章 體格

第一 六歳未満の體格

一 體 重

イ 全島の觀察

六歳未満の體重を性別に之を觀察すると、各歳孰れも男は女を凌駕してゐる。而して各性別に於ける差異の著しきは三歳(三歳とは三歳以上四歳未満者を謂ふ、以下之に倣ふ)にして男の三四三九匁に對し女は三二六八匁を示し一七一匁の較差がある。次は五歳間の一六二匁である。而して其の差異の最少なるは四歳間の一〇九匁とする。

年々に於ける發育値を見るに、男は零歳の一八九匁より五歳には四一九三匁に肥滿してゐるから、この五箇年間に二三九九匁の増加を示し、各歳四六〇匁の平均増加である。今各歳間年々の絶對發育値を見ると一歳乃至三歳は平均増加量以上を示し就中二歳の五四二匁、一歳の五三

五匁等顯著な發育を呈してゐる。次に女の發育値を見ると、大體男の傾向と同じで零歳の一七七五匁より五歳の四〇三一匁に達し二二五六匁の増加肥滿量にして、男に比し僅に四三匁の低位に過ぎない。年々の平均増加量を算出すると四五一匁で、各歳間の發育値は男と同様であるが、只年々の發育量に軒輊が認められる、即ち男の最大發育値は二歳の五四二匁より、最小發育値たる四歳の三七六匁であるから、その開きは一六六匁であるに對し、女は最大五四九匁(二歳)、最小三二五匁(五歳)にして其の較差は二二四匁を示し、男よりも五八匁の開きがある。

而して體重は男女ともに四歳は零歳の二倍期に達してゐて、女の肥滿率が遙に高い。その詳細を表示すると、次表の如くである。

□體性別體重比較(單位匁)

年々の發育値	性		年 齡					
	女	男	〇 歲	一 歲	二 歲	三 歲	四 歲	五 歲
女	一六六	一七五	一七五	二二五	二九一	三三九	三八六	四三三
男	一七五	一八四	一八四	二三四	三〇〇	三四八	三九六	四四三
差	九	九	九	九	九	九	九	九

地方別觀察

○歳乃至五歳の體重増加の状況を地方別に觀察すると、各州とも男は女より勝れてゐることは一般状態と同軌である。就中男女間肥満量の差異の著明なるものを示せば臺南州五歳の三七八匁、臺中州四歳の二四〇匁、臺北州三歳の二〇五匁等である。之に反して兩性間差異の低小なるは新竹州四歳の四〇匁を最とし、臺北州五歳の八一匁、臺南州四歳の八三匁等之に屬してゐる。次に年々に於ける絶對發育値の状況を地方別に分説して見る。

1 臺北州 本州各歳の絶對發育値は良好にして大體全島平均位を凌駕してゐる。而して女は各歳平均位を超越してゐるが、男にありては二歳、四歳、五歳の三年齡は平均位より低下してゐる。その低下量は五歳の七匁と二歳の二〇匁との間に於て甚だ少量に過ぎない。

2 新竹州 一歳の男女と四歳の女児を除けば、他は總て全島平均率より輕量である。されども本州の平均體重を全島平均體重に對比すると、劣小なるは男にありては零歳及び三歳乃至五歳の四年齡、女にありては二歳、三歳及び五歳の三年齡である。最も其の較差は極めて僅少である。即ち

比	全		新 竹 州		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
	男	女	男	女						
(一)	一、七八〇	一、八九四	一、八六四	一、七八〇	一、八六四	二、四七三	二、九八九	三、四一七	三、七六一	四、二一九
(一)	一、七七五	一、七七五	一、八四四	一、七八〇	一、八四四	二、四二九	二、八一四	三、二四七	三、七二一	四、〇一八
(一)	三、三〇〇	三、三〇〇	二、二七一	二、二七一	二、二七一	二、二七一	二、二七一	三、二六八	三、七〇六	四、〇三一
(一)	五	五	四四	四四	四四	四四	一八	二二	五四	六四
(一)	五	五	五二	五二	五二	五二	六	二二	一五	一三

右表の如く全島平均位に達せざるとは謂ひ、各年を通じ差減の極大は五歳男の六四匁より二歳女の六匁の間にありて全く微量である。

3 臺中州 年々の肥満量を全島平均のそれと對照して見ると、本州の優れたるは二歳の男女四歳の男及び五歳女の四年齡に過ぎない。又平均體重を平均位(全島)と比較して見ると一として本州の勝れてゐる年齢級がない。

4 臺南州 體重は全島平均に比し本州を優位とするは各性孰れも一年齡のみで男は五歳の一四五匁、女は四歳の五匁である。然れども各年の發育値を測定するに男は三歳乃至五歳の三年齡、女は二歳及び四歳の二年齡、計五年齡が全島平均より高位である。

5 高雄州 全島平均と比較するに、本州をして優位たらしめたものは、各性二年齡級宛にして男は零歳及び二歳級、女は男と同じく零歳及び三歳級にして、前臺南州の四、五歳級に勝れたるものと其の揆を異にし嬰兒級が好成績なることである。就中本州零歳男の一、九八四匁は全島平均(一、八九四匁)より九〇匁、臺北州よりは五四匁重くして全島の首位を占めてゐる。又零歳女は一、七八三匁にして全島平均(一、七七五匁)より八匁重く、全島の首位たる臺北州(一、八四三匁)に亞ぎて第二位の好成績である。

更に年々の發育値の全島平均より優勢なるは男女各一歳級にして、前者は二歳級、後者は三歳級である。各州に於ける平均體重、男女體重の較差並に年々の發育値を表章するとき、次表の如くである。

□地方別六歳未満者の體重(單位々)

種別	○ 歳		一 歳	二 歳	三 歳	四 歳	五 歳
	男	女	男	女	男	女	男
臺北州	1850	1850	2230	2230	2550	2550	2850
新竹州	1850	1850	2230	2230	2550	2550	2850
臺中州	1850	1850	2230	2230	2550	2550	2850
臺南州	1850	1850	2230	2230	2550	2550	2850
高雄州	1850	1850	2230	2230	2550	2550	2850

而して全島平均に在りては零歳の二倍期は四歳なれども、高雄州男のみは一九倍にして特例に屬してゐる。

ハ 好悪兩地區に於ける體重比較

衛生状態の良好なる地區と不良なる地區とに於ける五歳迄の幼兒の體重を比較して見ると、良好地區は各性各歳孰れも優秀である。即ち體格の良否は居住地帯の良否に斷然支配せらるゝことが分かる。但し茲に考慮すべきは調査期の遅速である、最初不良部落に先鞭を附けたる調査時と、優良部落の調査末期とを推算するときには十年の星霜を閲してゐる關係上、此の期間に於ける衛生事象の進歩發展が如何に人體に影響したる歟をも顧慮せざるべからず。唯男一歳は不良地區に於て僅に三四匁優れたる例外が認められた。

而して好悪兩地區に於ける差異の極小限は女三歳の二七匁である、之に反し最大限は同じく女一歳の一〇三匁である。

其の詳細は次表の通りになる。

□好悪兩地區に於ける體性別體重比較(單位々)

年 齡	男		女	
	良好地	不良地	良好地	不良地
〇 歳	1850	1850	1750	1850
一 歳	2250	2250	2150	2250
二 歳	2650	2650	2550	2650

年 齡	男		女	
	良好地	不良地	良好地	不良地
三 歳	三,四〇九	三,七〇三	三,三〇六	三,四〇一
四 歳	三,八二五	三,七〇〇	三,七〇六	三,四〇三
五 歳	四,一〇七	四,〇七九	三,九〇一	三,九〇三
差	九	九	九	九

備考 (一)は不良地區の勝れたるを示す。

二 内地との比較

島民の體格を直に内地に於ける内地人の體格と比較するは妥當を缺く嫌なきにあらざれども、姑く島民は内地人に比し優劣如何なる程度にあるやを考察せむとするに外ならず。即ち民族的に差異あるのみでなく地理的關係、生活態様にも亦甚大なる差異あればなり。而して内地に於ける成績は大正十年度以降道府縣廳に於て調査したる農村住民の體格であつて、下記七十八箇村の綜合總表である。

□内地農村衛生實地調査地

1 北海道	白石村	秩父別村	島野村
2 青森縣	野澤村	市川村	
3 宮城縣	下伊場野村	白川村	
4 秋田縣	馬川村	坊澤村	常萬村
5 山形縣	楮澤村	金山村	
6 福島縣	野尻村	中野村	
7 茨城縣	中野村	下大野村	

8 群馬縣	古卷村	尾間木村	毛呂村
9 埼玉縣	持田村	鎌足村	
10 千葉縣	山邊村	山道村	桐島村
11 東京府	戸倉村		
12 新潟縣	本田村		
13 富山縣	布勢村		
14 石川縣	中色知村	耳見村	磯部村
15 福井縣	天津村	富士見村	磯部村
16 山梨縣	秋田村	山口村	磯部村
17 長野縣	三穗村	東淺羽村	小倉村
18 靜岡縣	南上村	東淺羽村	小倉村
19 愛知縣	金澤村	脇ヶ畑村	安土村
20 滋賀縣	大寶村	脇ヶ畑村	安土村
21 京都府	乙訓村	上鳥羽村	
22 大阪府	安威村		
23 兵庫縣	新田村		
24 奈良縣	南阿太村		
25 和歌山縣	大野村		
26 鳥取縣	上郷村		
27 島根縣	三谷村		
28 岡山縣	吉岡村		
29 廣島縣	熊野村		
30 徳島縣	飯井上村		
31 香川縣	多野村		
32 愛媛縣	多野村		
33 高知縣	弘岡上ノ村		

34 福岡縣	吉武村	小石原村	安真木村
35 佐賀縣	基里村		
36 長崎縣	伊福村	松原村	那賀村
37 熊本縣	小田村	池尻村	
38 大分縣	糸口村		
39 宮崎縣	瓜生野村		
40 鹿兒島縣	佐志村	笠利村	吉利村

上記内地農村と對比すると、本島の成績は遺憾ながら唯零歳の男女のみが優越を認むる計りで、其の他の各歳は孰れも一匁乃至一四五匁の間にありて低劣である。即ち零歳は内地農村居住民に比し本島人男九四匁重きも、五歳に達すれば却て一四五匁の低減を來たして、結局本島人は五箇年間に二、二九九匁の増加に對し、内地人はこの間に二、五三八匁の體量を増した勘定となつて、一箇年島民の四六〇匁の平均増加に比し内地は五〇八匁に當つてゐる。又女も男の傾向と同様にして各歳間の平均増加四九二匁を示し、本島男の比率よりも迥に高率を呈してゐる。而して五歳迄の發育は男兒を優勢とすることは、内地人の歸嚮も本島と同軌である。

體重は發育經過を觀察するに唯一の標準を寄與するものであつて、出生時に於ける體重の輕重が將來の發育に重大要約を齎すものと謂はれてゐる。然るに島民零歳の佳良なるに拘らず、數年を経ずして内地人に逐斥せらるゝは果して育兒上の缺陷なりや、若し然りとせば榮養状態、疾病關係等に多大の注意を喚起せざるを得ざるものである。従て母體保護の問題も大いに強調せざるを得ない。

之を要するに體重は生後乳兒期中は本島人が優位であるが、爾後の横徑的發育状態は内地兒童

に比し遅々緩慢にして、二年後には却つて本島人が劣小を呈し、逐年漸次その殖加を大にしてゐる。

その各年の狀況を詳記すると、次の通りである。

□本島と内地との體重比較(單位、匁)

種 別	〇 歳		一 歳		二 歳		三 歳		四 歳		五 歳	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
本 島	一八六四	一七五五	二四四九	二四三二	三〇七二	三〇六〇	三三六九	三三六〇	三八二五	三八二五	四一五三	四一五三
内 地	一八〇〇	一七〇〇	二四〇〇	二四〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三八〇〇	三八〇〇	四一〇〇	四一〇〇
差	六四	五五	四九	三二	七二	六〇	六九	六〇	二五	二五	五三	五三
備考	(一)は本島の劣りたるを示す。											

二 身 長

イ 全島的觀察

零歳に於ける男の身長は二尺一、二分を示し、女の身長は男より四分の短少にして二〇八分である。而して滿五年を経過した五歳末に至れば男は三三六分、女は零歳末に於ける差減よりも僅に増加して七分となり三二九分を示してゐる。即ち一年平均發育値は男は二六分、女は二四分に當